

ハッピー ノート

草野たき作 ともこエヴァーソン絵 福音館書店

聡子^{さとこ}は六年生。学校^{がっこう}で無理^{むり}に友達^{ともだち}に合わせている自分^{じぶん}がいやでたまらない。そこから逃^にげるかのように中学受験^{ちゅうがくじゅけん}を決^きめ、塾^{じゅく}通^といをしてい^いる。聡子^{さとこ}の楽^{たの}しみは、塾^{じゅく}が終^おわったあと、思^{おも}いを寄^よせる霧島^{きりしま}くんと勉強^{べんきょう}をしたり、おしゃべりをするこ^こ。夏^か期^き講^{こう}習^{じゅう}がはじまると、苦^{にが}手^て科^か目^{もく}克^く服^{ふく}のため「ハッピーノート」を交^{じう}換^{かん}するこ^ことにな^なったのだ^だが…。

夏^{なつ}休^{やす}み中^{ちゆう}のさまざまな出来事^{できごと}や人^{ひと}との会^あい^いを^を通^{とお}して、聡子^{さとこ}のこころは成^{せい}長^{ちやう}し、友^{とも}達^{だち}や家^か族^{ぞく}との関^{かん}係^{けい}を築^{きず}き^きな^なお^おして^{して}い^いく。

